

ふるさと 見て歩き

第85回

北皆沢阿弥陀堂の聖徳太子

市内には、中世にさかのぼる木造の聖徳太子像が現在までに9体確認されています。聖徳太子をまつるのは、浄土真宗寺院や真言宗寺院、大工や金工を職業とする人々などで、昔から多くの人々の信仰を集めてきました。

聖徳太子は用明天皇の皇子で推古天皇の摂政となった人物として知られています。政治に携わるなかで冠位十二階や十七条の憲法をつくり、仏教を厚く保護しました。また、その優れた能力から、多数の人の意見を聞き分けることができた、などという逸話も後世に生まれました。

北皆沢阿弥陀堂には、もともと木造聖徳太子像のほか、木造如来像、石造地藏菩薩像が安置されていました。「阿弥陀堂」と呼ばれていることから考えて、現在磨滅のため像様が不明瞭になっている如来像は、阿弥陀如来であったと考えられます。

この阿弥陀堂では、毎年8月23日前の土日に班の方たちが集まって、地藏をまつお祭りを行っています。地藏は子どもを守る仏として人々に親しまれてきました。阿弥陀堂に安置されていた聖徳太子像と如来像も当初は地藏のように赤い帽子と着物をたくさん着せられ、地元の人々から地藏として信仰を集めていたことがうかがえます。

地藏の縁日である24日を含む、7月または8月の3日間を「地藏盆」として地藏菩薩をまつる行事は近畿地方に広く見られますが、当地域でも8月下旬に多く見られる年中行事です。



▲かつての阿弥陀堂

もともとここには寺があったと推定されますが、江戸時代前半に作られた寺院の台帳である『開基帳』（寛文3年・1663）などでは確認することができま

せん。聖徳太子像と如来像はおそらく当地にあった寺の本尊であったと考えられます。

阿弥陀堂の聖徳太子像（市指定文化財・歴史民俗資料館寄託）は、現状で像高90cm程の大きさです。風化による損耗のため、杵先や手首先、持ち物（笏や柄香炉）、美豆良などが失われ、彩色も剥落しています。



▲聖徳太子像



▲聖徳太子像の刻銘

背面に「天正十四年（1586）丙戌十月二日」と刻まれていて、430年程前に作られたものであることがわかります。

市内には中世の作とされるものを含め、この他に8体の聖徳太子像が確認されています。

当地域に、中世に制作された聖徳太子像が多く存在するという事は、親鸞聖人が稲田（笠間市）を中心に布教したことが大きな要因の一つと考えられます。

親鸞は、師である法然とともに、阿弥陀如来、仏教を守護した聖徳太子を厚く信仰したため、浄土真宗寺院では、聖徳太子を描いた掛軸や彫刻がまつられるようになりました。

聖徳太子像には、2歳の南無太子像、3歳の松葉太子像、16歳の孝養太子像、22歳の摂政太子像などがありますが、浄土真宗寺院で多く見られるのが孝養太子像です。市内の9体の聖徳太子のうち、8体が孝養太子像です。聖徳太子が16歳の時、病気の父用明天皇を見舞う姿を表したものといわれ、右手に笏、左手に柄香炉を持つ姿をしています。

北皆沢阿弥陀堂の聖徳太子像もそのような姿をしていたのかもしれませんが。

歴史民俗資料館大宮館 ☎52-1450